

2023 FISU World University Games

Report 8(8/5)

8月5日(土)

大会2日目。この日のWUG日本代表チームのレースは、W1xのみでしたが、その他のクルーも朝の練習時間帯に乗艇練習を行い、最終日に向けた最終チェックを行いました。

W1xは非常にタフなスケジュールの中、見ごたえのあるレースを繰り広げ、最終日に向かうチームに良い勢いを与えてくれました。

W1x敗者復活

スタートからどの国も主導権を握ろうと、相当な気迫で抜きんでようとする中、日本も負けじと応戦。しっかり対応している。500mを通過するときにはトップのドイツに1.62秒差の2位で通過。セミファイナルA/B通過ラインの3位以内はキープするも4位オーストリアとは1.17秒差と油断はできない。しかし、ここからが見せ場とばかりに上位3クルーの中でも常にトップを狙える位置で4位オーストリア以下を引き離しにかけ、第3クォーターでオーストラリアが上がってくるが慌てずペースを守り、ラストクォーターでトップに立ち見事オープン種目でのセミファイナルA/B進出を決めた。

写真は500m付近で主導権争いを繰り広げる各クルー。手前からオーストリア、オーストラリア、日本、ドイツ。



W1x セミファイナルA/B

スタートからチェコ、リトアニア、ハンガリー、オランダが飛ばし、日本と韓国が続く展開となる。何とかファイナルA通過ラインとなる3位以内に入るべく前を追いかけるが、じりじりと離される。何度もペースアップをと試みるが、状況を変えることができないままゴール。5位でファイナルBに回るようになった。ただ、敗者復活からわずか2時間後という過酷な状況の中でも真っ向から勝負に挑んだレースであった。残念ながらファイナルA進出を逃す結果となったが、常に前向きにチャレンジし続ける姿は、最終日に挑むチームに良い影響を与えることになった。

写真: W1x飯島選手(明治安田生命)のゴール前の力漕。



トレーニングクルー

